

## 平成 25 年度 教育方法改善のための自己点検・評価(授業評価等)実施状況 調査結果

### 1. 学生による授業評価

#### (1) 実施状況

別紙「平成 25 年度授業評価実施状況一覧」のとおり

#### (2) 実施組織

部局名	大学側（学生側）
大学教育・学生支援機構	大学教育・学生支援機構、教育基盤センター、教育推進部会
教育学部 教育学研究科	教務委員会
社会情報学部	教務委員会
社会情報学研究科	大学院学務委員会
医学部（医学科）	医学科教務部会 （学友会授業向上委員会）
医学部（保健学科）	教育課程専門委員会
医学系研究科	医科学専攻教務委員会 生命医科学専攻教務委員会
保健学研究科	教務委員会
理工学部 理工学府	評価委員会 （授業改善ワーキンググループ）

#### (3) 実施方法

部局名	実施方法
大学教育・学生支援機構	<p>年度当初に実施科目を、教育基盤センター運営委員会で選定した(25 年度は学びのリテラシー)。</p> <p>開講授業科目の担当教員を通じて、質問票を学生に配付・回収した。回収した質問票は、外部委託によりデータ集計を行った。</p> <p>上記の実施状況(科目数、アンケート回収枚数)以外では、「教養教育アンケート」として、教養教育科目履修学生全員にアンケート用紙を配付した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 配付方法: 必修科目の授業時に配付・アンケート記入後に回収</li> <li>・ 回収枚数: 1,026 枚</li> <li>・ 回収した質問票は、外部委託によりデータ集計</li> </ul>
教育学部 教育学研究科	<p>授業時に各教員がアンケート用紙を配付し、学生が回収して教務係へ提出する。</p> <p>なお、このアンケートによる評価になじまない実験・実技・実習などの講義以外の授業では、別途「授業改善報告書」を提出させた。</p>

社会情報学部 社会情報学研究科	前後期の授業終了時に、アンケート用紙を配付し回収した。
医学部（医学科）	医学科の学生自治組織である学友会に設置している授業向上委員会が主体となり、各学年に対してアンケートを実施、回収・集計結果を医学科教務部会へ報告している。
医学部（保健学科）	各授業担当者から受講学生にアンケートを配布し、記入の上、保健学科教務係へ提出する。
医学系研究科	医学基礎技術実習については Basic 実習4科目を対象として実施、生命倫理公開セミナーについては2科目を対象として実施している。配付は各教員が授業時に行い、回収は大学院係で行った。 また、生命医科学専攻の1年次開講科目(学部との共通科目以外の科目)である2科目について実施し、配布は各教員が授業時に行い、回収は大学院係で行った。
保健学研究科	前学期の最終授業の最後にアンケートを配布し、各自、あるいは代表者が大学院係へ提出。
理工学部 理工学府	前期・後期で、学部・大学院のうち1科目以上は全教員が授業改善のためのアンケートを受けることとした。大学院については、原則全科目で実施することとした。詳細な実施方法は、各学科・教育プログラムで決定したが、主に学生側にアンケート用紙の回収等を行うワーキンググループを組織してもらい、これが主体となって実施した。各教員はアンケート結果に基づいて、学生に回答するためのリアクションペーパー等を作成した。 また、これと並行して教員相互の公開授業を実施した。

#### (4) アンケート結果に基づく自己点検・評価

部局名	教育方法の具体的な改善事例など
大学教育・学生支援機構	「学びのリテラシー」を対象に学生アンケートを実施した。教養教育のカリキュラム(授業科目のメニュー・時間割・授業内容)や教養教育における教員の授業の教え方などの確認ができ、課題も見つけることができたので、今後の授業内容等の改善が期待される。 さらに、教養教育アンケートでは、総合的な評価では概ね好評であったが、シラバスに関しては活用する者が増える傾向にあるが、まだ配付物(履修手引・授業案内)の方が役立つと捉えられている。今後は新教務システムの導入もあり、よりシラバスの充実と学生への周知が重要と思われる。 平成26年度から新教務システムを導入し、学生が履修登録時にシラバスを同時に確認できるよう運用を開始する。
教育学部 教育学研究科	総合評価において、9割以上の学生が肯定的な評価(「優れている」「やや優れている」)をしている。

	<p>全体から比べると小さな割合だが、評価項目の「説明の分かりやすさ」及び「板書・OHPの見やすさ」において、改善すべきとの評価をしている学生がいることは課題である。</p> <p>評価結果を各教員にフィードバックし、授業改善を促している。</p>
社会情報学部 社会情報学研究科	<p>授業評価アンケートの結果を踏まえ、教員は授業内容や授業方法等を改善することとしている。</p>
医学部（医学科）	<p>アンケート集計結果は、教務部会に報告の後、例年実施しているFDで公表して今後の授業内容向上のための参考としている。</p> <p>アンケート自体は学生主体で行っており、学生の自由な意見を拾い上げているので、学生の本音が反映されており、学生と教員で活発な意見交換が可能となっている。</p> <p>個々のアンケート結果の教員へのフィードバックについて検討中である。</p>
医学部（保健学科）	<p>毎年2回の保健学教育ワークショップを実施している。</p>
医学系研究科	<p>生命倫理公開セミナーに関しては、アンケートによるフィードバックは授業担当教員までであり、授業の改善に役立っているが、医科学専攻教務委員会でアンケートの内容について審議し、シラバスの向上に活かす方向で検討中である。</p> <p>医学基礎技術実習のBasic実習4科目に関しては、アンケート結果を大学院教育研究支援センター教育研究部門運営委員会において審議し、実習内容の改善に役立っている。平成26年度は医学基礎技術実習の全ての科目についてアンケートを実施する予定である。</p> <p>リーディング大学院のプログラム全体に関しては、学生からの要望を受けてプログラムの改善に活かしているが、個々の授業に関するアンケートは実施しなかったため、平成26年度以降は実施して授業内容の改善に活かしたいと考えている。</p>
保健学研究科	<p>博士前期課程の各領域学生の必修科目において実施したが、3科目のうち2科目は4段階評価の4（優れている）が多数であり、1科目は4と3（やや優れている）がそれぞれ5割であり、おおむね好結果が得られた。</p> <p>自由記述欄を広く設けた書式にしたので、学生の率直な意見が集約できた。オムニバス形式の授業で、各領域それぞれ先端的研究を紹介する内容としているが、今後いかに学生の興味を引くテーマを紹介できるかが課題である。</p> <p>3科目ともオムニバスであり、各領域の教授、非常勤講師からさまざまな話題が講義されたため、多岐にわたる研究テーマが学生の興味を引く内容となったと考えられる。今後も最新研究の動向を紹介できる非常勤講師の人選をすすめていく。</p>

理工学部 理工学府	<p>改善を希望する点が詳しく書かれているので、教員にとって授業方法改善の参考となり、その結果、以前と比較して学生の授業に対する理解度や満足度はかなり向上していると言える。</p> <p>アンケート結果のフィードバックについては、各学科・教育プログラム内での「学生との懇談会」を中心に行われている。</p>
--------------	---

## 2. 学生との懇談会

### (1) 実施状況

部局名	名称	実施月日	大学側 参加者数	学生側 参加者数	内容
大学教育・ 学生支援機構	学生と学長との 懇談会	H25. 7. 9	15 名	83 名	4月入学の学生を対象に大学生活に関して、学長と直接対話する機会を設け、大学への意見・要望を聴取
教育学部 教育学研究科	学部長との 懇談会	H26. 1.30	5 名	6 名	学生生活、学習環境などについて、意見交換。
	院生との 懇談会	H26. 2.28	5 名	13 名	カリキュラム、学習環境などについて、意見交換
社会情報学部 社会情報学 研究科	学部長と学生との 懇談会	H25.10.30	9 名	7 名	学部長(他の教員含む)と学生の懇談
	研究科長と大学院生との 懇談会	H26. 1.24	4 名	10 名	研究科長(他の教員含む)と大学院生の懇談
医学部 (医学科)	学友会との 懇談会	H25. 6.24	20 名	25 名	授業・実習関係施設および学生生活関係について懇談
	学友会との 懇談会	H26. 2. 3	20 名	20 名	授業・実習関係施設および学生生活関係について懇談

医学部 (保健学科)	学友会との 懇談会	H25. 6.18	26 名	17 名	教育課程・施設等の 要望・事情聴取・意見 交換
	学友会との 懇談会	H25.12.11	27 名	20 名	教育課程・施設等の 要望・事情聴取・意見 交換
理工学部 理工学府	学生との懇談会 3年生 (情報工学)	H25. 7.16	1 名	2 名	授業アンケートに関し て意見交換
	授業改善アンケ ート報告会(応 用化学・生物化 学科2年生)	H25. 7.18	21 名	24 名	2年生前期のアンケ ート集計結果と教員から の回答についての学 生委員の報告及び担 当教員のコメント
	学生との懇談会 2年生(情報工 学)	H25. 7.22	1 名	3 名	授業アンケートに関し て意見交換
	授業改善アンケ ート報告会(応 用化学・生物化 学科3年生)	H25. 7.22	28 名	27 名	3年生前期のアンケ ート集計結果と教員から の回答についての学 生委員の報告及び担 当教員のコメント
	授業アンケート に関する学生と の懇談会(社会 環境デザイン工 学)	H25. 8. 6	7 名	4 名	前期授業アンケートに 関して意見交換
	学生との懇談会 2,3年生 (機械システム 工学)	H25. 8. 7	14 名	11 名	授業アンケートに関し て意見交換
	授業アンケート に関する学生と の懇談会 (社会環境デザ イン工学)	H25.12. 6	5 名	4 名	後期授業アンケートに 関して意見交換
	学生教員懇談会 (生産システム 工学)	H25.12.16	6 名	15 名	授業アンケートに関し て学生と教員の意見 交換

	授業アンケートに関する学生懇談(情報工学)	H26. 1.14	4名	8名	後期授業アンケートに関して意見交換
	授業アンケートに関する学生懇談(電気電子工学)	1月中旬～下旬(メールによる意見聴取)	1名	8名	後期授業アンケートに関して意見交換
	理工学部長等と学生との懇談会	H26. 1.22	10名	54名	大学全体について懇談
	授業改善アンケート報告会(応用化学・生物化学科2年生)	H26. 1.29	19名	24名	2年生前期のアンケート集計結果と教員からの回答についての学生委員の報告及び担当教員のコメント
	授業改善アンケート報告会(応用化学・生物化学科3年生)	H26. 2. 3	18名	20名	3年生前期のアンケート集計結果と教員からの回答についての学生委員の報告及び担当教員のコメント

(2) 懇談会での意見に基づく自己点検・評価

部局名	教育方法の具体的な改善事例など
大学教育・学生支援機構	施設・設備、学習環境、教育課程などについて、学生から意見・要望があった。 学生の要望により、ロッカーの新調や学生駐車場の拡充などを行った。 (詳細については、根拠資料参照)
教育学部 教育学研究科	設備、学習環境及びカリキュラムなどについて、多くの学生から要望があった。 放課後の教室開放、図書館利用時間の延長、更衣室の充実など学習環境の改善を求める学生が多いことが課題である。 学生より要請のあった「更衣室の充実」について、N棟・E棟のロッカー一室にある不要な物品を処理し、ロッカーを新規購入するなど更衣室として使用できるようにした。
社会情報学部 社会情報学研究科	学生からの要望や希望等を踏まえて学修環境の整備・改善を行った。 102 操作室を自習室に改修し、教室の確保に配慮した。

医学部（医学科）	<p>学生による授業評価で実施したアンケート結果について、意見交換等を行った。</p> <p>学生による授業評価で実施したアンケート結果について意見交換を行い、その結果、早急に対応すべきところやできるところは対応している。</p> <p>また、臨床実習等の実施に係る要望等については、教務部会、学科会議等で検討し、改善できるところは改善している。</p>
医学部（保健学科）	<p>懇談の結果、トイレの換気扇故障の修理・教室のプロジェクタの画面調整・保護者への成績送付が実現した。</p>
理工学部 理工学府	<p>学生からの意見・要望を各教員に周知し、授業改善に役立っている。</p> <p>太田キャンパスの学生が桐生キャンパスの授業を履修するにあたって、不利益な部分を改善してほしいという意見があり、遠隔講義の増設や時間割の割振りの工夫の検討を学部事務に申し入れた（生産システム工学）。</p> <p>課題としては、教員に直接意見を言いにくいということが見受けられる。</p> <p>懇談会の後、メールでの匿名で意見を聴取する方法をとったところ、特に厳しい意見もなく、効果的であった（電気電子工学）。</p>

### 3. FD活動

#### (1) 実施状況

部局名	実施組織	名 称	実施月日	教 員 参加者数	内 容
大学教育・ 学生支援機構	教育基盤 センター	ベストティーチャー 賞選考のための 公開模擬授業	H25. 5.14	34 名	各部局から推薦された最優秀賞候補者6名による公開模擬授業を実施
	教育基盤 センター	教養教育ベストティーチャーによる 公開授業	H25.10. 8 ～ H25.10.24	3 名	昨年に引き続き、教養教育ベストティーチャー優秀賞受賞者3名の授業を公開
	教育基盤 センター	英語教育FD	H25. 9.18	17 名	実例発表を通して今後の英語教育方法の改善について確認

	教育基盤 センター	英語教育FD	H26. 3.18	21名	実例発表を通して 今後の英語教育方法の改善について 確認
教育学部 教育学研究科	教育学部	特設の授業公開 (前期)	H25. 6.17	1名	授業の参観 及び授業研究会
	教育学部	特設の授業公開 (後期)	H25.11. 7	1名	授業の参観 及び授業研究会
	教員養成 FD センター	新任教員研修会	H25. 4. 4	15名	教育学部が置かれて いる現状を理解 してもらうための研 修。教育学部の新 任教員に対し、本 学部の特徴、附属 学校園の役割、教 員養成のしくみ、FD センターが目指す ものについての講 話
	教員養成 FD センター	教育サロン	H25. 7.11 H25.12.10	13名 11名	公開研究会や教育 実習の授業参観を 通じて感じた学校 現場の現状や学生 への指導上の課 題、教育実習のあ り方等について意 見交換
社会情報学部 社会情報学 研究科	FD 専門委員会	FD 勉強会	H25. 9. 11	13名	講演「アクティブラ ーニングの展開と その文化的・空間 的背景」
	FD 専門委員会	公開授業	H26. 1. 9	3名	「環境法Ⅱ」
	FD 専門委員会	公開授業	H26. 1.23	4名	「比較文化論 B」
医学部 (医学科)	医学教育 センター	医学教育教授法 ワークショップ	H25.12.14	159名	模擬授業 講演 特別講演



医学部 (保健学科)	教育課程 専門委員会	保健学教育 ワークショップ	H25. 9.25	62 名	ベストティーチャー 賞受賞者による 講演
	教育課程 専門委員会	保健学教育 ワークショップ	H26. 3. 5	67 名	ミッション再定義に おける各大学の取 り組みについて 講演・討議
医学系研究科	医科学専攻 教務委員会	群馬大学大学院 医学系研究科 医科学専攻・ 生命医科学専攻 FD兼成果報告会	H26. 2.12	80 名	「地域オープンイノ ベーション R&D 人 材養成」及び「卒 前・卒後一貫 MD-PhD コース研 究成果報告会」
理工学部 理工学府	理工学部	英語教育 FD	H25. 9.19	40 名	教養英語の成績等 について
	理工学部	ベストティーチャー 賞優秀賞受賞者に よる模擬授業	H25. 9.20	105 名	ベストティーチャー 賞優秀賞受賞者に よる模擬授業
	理工学部	5大学連携教育 シンポジウム	H25. 9.26	40 名	基調講演「大学に おけるグローバル 人材育成最前線」、 学生発表他
	群馬大学	博士キャリアパス開 発シンポジウム 2013	H25.11.18	90 名	基調講演、インター ンシップ体験発表 他

(2) FD活動に基づく自己点検・評価

部局名	教育方法の具体的な改善事例など
大学教育・学生支援機構	<p>英語FDは、実例発表を通して今後の英語教育方法改善の動機付けになった。また、ベストティーチャー賞関連の公開模擬授業は、新任教員をはじめとする若手教員や優れた授業を行う教員への動機付けになった。</p> <p>具体的な改善例としては、過去2年間において、各学期の始めに英語のクラス分けを実施していたが、後学期始めのクラス再編成において、予想以上に学生の移動が多く、一部の先生から教えるに難しいという課題が寄せられた。</p> <p>平成 26 年度からクラス分けは年度当初のみに変更し教育効果を図る予定である。</p>

<p>教育学部 教育学研究科</p>	<p>新任教員研修会を開催することによって、新任教員に、教育学部の特色や教育実習のカリキュラムについて速やかに理解してもらうことができた。またあわせて教育実習生に対する指導の心構えも得ることができた。</p> <p>教育サロンを開催し、学部教員と附属学校教員が教育実習での問題点や教育実習のあり方を議論することにより、教育実習生に対する学部での指導上の課題を見出すことができた。また教育実習での問題点などを議論することにより、そこから今後の学部学生への指導に活かす方途を得られた。</p> <p>見学者・授業者が相互に授業改善に資することを目的に、授業評価で好評を得ている授業について、広く見学者を募って授業公開を行った。このことについては、教員の参加数が少ないことが課題である。</p> <p>授業公開の日時・内容等について掲示するだけでなく、全教員宛にメールにて通知している。</p>
<p>社会情報学部 社会情報学研究科</p>	<p>アクティブラーニングをテーマとする勉強会では、大森昭生・前橋国際大学教授による講演「アクティブラーニングの展開とその文化的・空間的背景」を踏まえ、学生中心主義の大学像を共有すべきこと、アクティブラーニングが学生の基礎力を育成すること等を確認し、今後の授業方法に様々な形でアクティブラーニングを取り入れるためのヒントを得ることができた。</p> <p>また「環境法Ⅱ」の公開授業では、現代の最先端の問題と伝統的な諸学問を結合させるという社会情報学的なアプローチの有効性を確認し、さらに「比較文化論B」の公開授業は、社会情報学発展のために諸学問を融合させる学際性が社会情報学研究の根幹をなすものであることを再確認し、各教員の今後の授業展開や学部のカリキュラム編成のための有益な一助を得ることができた。</p>
<p>医学部（医学科）</p>	<p>学友会授業向上委員会から選出された教員による模擬授業を行うことにより、学生にとっての分かりやすい授業方法を参加教員に対し、認識・啓発することができる。また、その模擬授業のアンケートも実施することで、改善点等の再認識の一助になると考える。</p> <p>模擬授業を参考に自身の講義に取り入れる等の改善がみられている。</p> <p>課題としては、出席率を向上し、多くの教員にFD活動を周知する必要がある。</p>
<p>医学部（保健学科）</p>	<p>ベストティーチャー賞受賞者による公開模擬授業を実施して、各委員の授業方法・質の向上に努めている。単なる模擬授業ではなく、授業実施に当たっては如何に学生に興味を持たせるか。また如何に内容を理解することができるようにできるか。このようなことを念頭に置き、要点をおさえ丁寧に説明するなど、ベストティーチャー賞受賞者が特に留意している点を中心に講義をしてもらった。</p> <p>また、ワークショップでは、新たに設置された「保健学教育・研究センター」の活動内容及び平成25年度から実施する「学びのリテラシー」について共通認識を図るとともに全教員に周知することを目的に実施した。</p>

医学系研究科	<p>本年度のFDは、平成25年度文部科学省「未来医療研究人材養成拠点形成事業」に採択された「地域オープンイノベーション R&amp;D 人材養成」プログラム及びそれに基づき設定した「医療開発医科学コース」について、プログラムコーディネーターの西山正彦教授から概要の説明が行われた後に、活発な質疑応答が行われた。</p> <p>また、「卒前・卒後一貫 MD-PhD コース」のプレ履修者で、本年度研究プロジェクトに対して支援を受けた8名による研究成果報告会が開催され、活発な質疑応答が行われた。その後、学外の評価員である松井秀樹教授(岡山大学大学院医歯薬学総合研究科)、中田隆夫教授(東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科細胞生物学分野)、竹田扇教授(山梨大学大学院医学工学総合研究部細胞生物学分野)から、本プログラムに関するコメントをいただき、外部評価書もご提出いただいた。先生方からいただいたご意見を今後の大学院教育の更なる充実化に生かす予定である。</p>
理工学部 理工学府	<p>公開授業については、学科で実施科目と期間を決めて教員が自由に他の授業を見学することができる。見学した教員は報告書を作成し、提出している。その中では、他の教員の授業の進め方で参考になる点や学生の反応を客観的に見られたこと、自身の授業に取り入れたい部分を再確認できたという意見が多かった。</p> <p>また、ベストティーチャー賞受賞者による模擬授業を実施して、知識の伝達ということだけでなく、工夫をしている点、例えばPPTの使い方や板書の仕方、話し方など、特に留意している点を踏まえて講義をしてもらい、出席者もその授業の良いところを発見し、自分の授業にも活かすよう心がけてもらう良い機会となっている。</p> <p>課題としては、ベストティーチャー賞受賞者模擬授業の出席者の確保があるが、具体的な改善策として、教員会議の一環で開催している。</p>

#### 4. 学生などの意見調査 (在学生、卒業(修了)生、就職先及び保護者など)

##### (1) 実施状況

部局名	名称	実施月日	対象者 ・人数	内容
教育学部 教育学研究科	教育に関する 現況調査アンケート	H26. 2. 1 ～ H26. 2.21	学部3年生 167件, 学部4年生 129件	教員養成課程に関する教育の現況を明らかにする
社会情報学部 社会情報学研究科	新入生との懇談会	H25. 4. 5	学生 104名 保護者 30名	新入生と教員による懇談 学部長と保護者による懇談

	後援会総会	H25. 6.29	保護者 70名	保護者との懇談
--	-------	-----------	---------	---------

(2) 意見調査に基づく自己点検・評価

部局名	教育方法の具体的な改善事例など
教育学部 教育学研究科	調査実施の協力体制の見直しを行ったため、前年度と比較し回答率が伸びた。 (注:大雪の影響のため調査実施が出来ない専攻があった) 2月15日の大雪のように不測の事態が起こることもあるため、アンケートの配布を2週間ほど早くして、アンケートの実施・回収に少し時間的なゆとりをもたせることを検討する。
社会情報学部 社会情報学研究科	昨年度から引き続き、保護者からの意見等を踏まえ成績表の配付について、保護者への配付時期を早めた。

5. その他特記事項

部局名	特記事項
医学系研究科	<p>学生との懇談会・意見調査などは行っていないが、FDや「大学院生によるワークショップ」の後に、学生と教員、外部評価者、招待講演者などとの意見交換会を開催しており、その機会を利用して学生からの意見を聴取し、それを教育方法改善に役立てるよう努めている。</p> <p>具体的な改善事例として、以下の2点があげられる。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 秋入学の生命医科学専攻(修士課程)の学生と懇談した結果、日本語での授業は理解ができない事が明らかとなったため、すべての講義実習を英語で開設することとした。</li> <li>2. 日本語によるコミュニケーション能力向上のため、通常授業の「基礎科学日本語」に加え、週に複数の日本語の授業を選択科目として開設し、受講できるようにした。</li> </ol> <p>これらの結果、学生の講義に対する理解力が飛躍的に上昇し、また、日本語の学習機会が増加した。</p>
理工学部 理工学府	<p>理工学図書館の改修にあたり、学生からの要望も踏まえ、ラーニングコモンズを新設した。可動式の机や椅子等を配置し、グループ討議や会話も可能な共有学習スペースとして、さまざまな目的で学生が自由に利用できるようにした。</p> <p>個人で閲覧室より静かな環境で学習したい学生の要望に対しては、クワイエットスタディゾーンを新設した。また、飲食可能なスペースとして、リフレッシュコーナーを設置した。いずれも学生から好評を得ている。</p>

## 学生と学長との懇談会(教養教育)における意見・要望に対する回答について

7月9日に開催した「学生と学長との懇談会」における意見・要望に対する回答を次のとおり取り纏めましたので、お知らせいたします。

なお、回答には、事前アンケートにおける意見・要望に対する回答を含みます。

### 1 施設・設備

- 荒牧地区の生協食堂の席数を増やして欲しい。  
過去にも要望があり、改修して席数を増やした。予算の問題もあり、これ以上増やすことはすぐにはできない。昼食時間帯の「席取り」「荷物置き」「食事以外の利用」を減らすなど譲り合いながら利用して欲しい。
- GB・GC棟の駐輪場がいっぱいなので増設してほしい。  
空いている体育館側の駐輪場を利用してほしい。
- GB棟にゴミが散乱していたので、清掃を増やしてもらいたい。  
清掃は定期的に行っているが、ゴミの捨て方など学生のモラルによるところが多分にあるので、学生自身で教室内や廊下など公共のスペースは清潔に保つように心がけて欲しい。
- 昭和では授業が午後5時50分に終わるので、昭和の生協売店の営業時間を午後6時半までにして欲しい。  
利用者数の関係もあるので、生協の責任者と相談してみたい。
- 保健学科看護専攻の学生ロッカーが細長く、バッグが入らないで困っている。  
改修工事に併せ、学生の要望も聞きロッカーを新調した。学部でも懇談会があるので、その時にでも要望を出して欲しい。
- 昭和の学生用の駐車スペースが足りない。西の駐車場を立体化できないか。  
昭和地区は、病院という特殊事情があり、まずは患者優先である。看護職員が増えたこともあり、職員・学生分としてリリカの5・6階の駐車スペースを500台分確保した。立体化については、近隣住民との関係や経費の問題もあり難しい。

### 2 学習環境

- 休日に、学生相談を利用しようとしたができなかった。休日でもできるようにして欲しい。  
一般的な学生相談は、平日に行うようにして欲しい。ハラスメントについては、新入生オリエンテーションで配布してあるハラスメントホットラインに連絡願いたい。その他、緊急の案件については、この限りではないので、いつでも、学生便覧に掲載している夜間・休日の連絡先を利用願いたい。その場合は、緊急対応連絡網により適切に対処する。
- 始業・終業時刻にチャイムを鳴らして欲しい。以前、終業時刻を過ぎてでも終わらず、次の授業が遅刻扱いにされたことがある。  
廃止した経緯を確認し、再度チャイムを鳴らすこととするのか検討したい。教員に対しては、終了時間を厳守させるなど、次の授業等に支障が生じないように注意を促したい。
- インターンシップ報告会で、掲示には1・2年生も参加対象になっており、申込も不要となっていたのに、会場で名簿に記載のない学生はダメだと言われ、参加を断られてしまった。  
会場の都合もあったと思われるので、今後はそのようなことの無いようにする。
- 健康支援総合センターへ午後5時30分の授業が終わってから相談に行ったら、相談窓口が午後5時に閉まっていた。授業が終わってからの相談もあるので、どうにかならないか。  
講義の無い時の授業時間内に相談にきてもらいたい。  
なお、業務の性質上、救急への対応は例外として行っている。
- 昭和地区の図書館は、1年生は午後9時以降使用できない。レポート作成等があるため、他の学年と同

様に使用させて欲しい。

医学図書館については、現在、特別利用により24時間利用可能となっているが、1年生については、2010年から試行的に他学年の学生と同様に特別利用できるようにしている。なお、1年生の24時間利用については、利用のためのガイダンス等の関係もあり、9月に申込み、後期から24時間利用を可能としている。

今後、6月頃から24時間利用できるように検討する。

- 理工学部の図書館は、日曜日が開いていない。せめて午前中は開けて欲しい。

以前、試行的に実施したが利用者が少なかったため、現在は実施していない。希望が多ければ検討するので、意見箱を活用して欲しい。

### 3 教育課程

- 東医体に参加するため飛行機や宿泊を予約した後に試験日程が判明し、期末試験と重なってしまった。別の日に期末試験が受験出来るようにして欲しい。

期末試験日程は、学年初めから、履修手引等で周知されている。学生の本分は勉学であるため、正課外活動を理由に期末試験日程を変更することはできない。この問題については、今後、学年暦の見直しを検討する中で、解消されるかもしれないが、早急に学年暦を変更することはできないことを理解してもらいたい。

- 時間割表で、授業が集中するときと、空き時間が多くできてしまうときがある。どうにかならないか。

それぞれの学生が、自分の履修しようとする科目を選択したとき、そのような状況が起こるが、個々人によってそれは異なる。単位修得のためには、授業の他に予習・復習が必要なため、空き時間はこれらの時間に当てるなど、学生自身で工夫して欲しい。大学としても時間割については工夫をしていきたい。

- 同一授業科目で学生自ら（相性が合う）授業担当教員を選択することはできないのか。また、同一授業科目で課題が異なるのはいかがかと思う。

必修授業の場合、評価基準や課題が異なるのは良くないと思っている。不公平の無いように教員へ周知していきたい。なお、教員との相性については、これから社会に出ても自分と合う人とだけ付き合うということではできないので、誰とでも付き合えるよう努力してもらいたい。

### 4 その他

- 昨年までは、荒牧地区生協にテイクアウト用のミニ弁当があったが、今年から無くなってしまった。再度、販売してほしい。

ミニ弁当の売れ行きが悪かったため中止した。要望がある場合は、意見箱を活用するか、直接、生協へ申し出て欲しい。

- 大学のロータリーまで入るバスの便数を増やして欲しい。

バス会社に交渉したところ、大学の授業時間割や利用状況を参考にして、運行ダイヤ改正を検討することである。

また、乗客のニーズに応えるため、現在、本学を含めて沿線の方々から意見や要望を聴取しているとのことである。

- 医学祭を毎年開催するようにして欲しい。

毎年開催していないのは、学生に負担になっているからだと思う。また、資金についても寄附を募っていると思うが、その資金が集まるのか。学生自身の活動なので、皆の話し合いの中で決めてほしい。

- 群馬県緊急医師確保修学資金の貸与額について、高額すぎると感じているので、減額してもよいのではないか。

この修学資金は、群馬大学からではなく、群馬県から医師確保のために貸与されているものであるため、修学資金の趣旨を理解して地域から信頼される医師を目指してほしい。

以上